

古川西部地区 統合準備委員会ニュース

令和5年1月発行

—未来を担う子どもたちの教育環境の充実を目指して—

編集発行：学校教育環境整備推進室

問合せ先：大崎市教育委員会 教育総務課

TEL：72-5032

FAX：72-4004

メール：ed-soumu@city.osaki.miyagi.jp



～「古川西小中学校 校歌」決まる～

令和4年12月の大崎市議会第4回定例会において、西部地区の4小学校と1中学校が統合した義務教育学校を「大崎市立古川西小中学校」として設置する議案が承認され、令和5年4月に開校することが正式に決まりました。校舎の増改築も最終段階を迎え、4月の開校に向けて着々と準備が進んでいます。

古川西部地区の第9回統合準備委員会が、12月23日（金）に志田地区公民館を会場として開催されました。各部会の報告や作詞・作曲を終えた校歌の初稿（デモ音源を含む）について、活発な意見交換がなされました。「大崎耕土への熱い思いを校歌に」とのご意見をいただき、作詞者・作曲者の方々の快諾を得て、これから何十年と歌い継がれるであろう素晴らしい「古川西小中学校校歌（完成版）」ができあがりしました。

【報告・協議等の状況】

《学校教育部会報告》 教育課程は、校長先生方の指導のもと、3月の完成に向けて着々と進んでおり、大崎市として初の義務教育学校となる「古川西小中学校」は、「9年間を見通した教育課程と柔軟なカリキュラムの編成（一部教科担任制）、地域との協働による学校づくり、大崎耕土の農業文化を中心にした地域学習」等を柱に据え、9年間で子どもの育成を目指す方針であることが報告されました。

備品の移動に関しては、各校の事務担当の先生方や教科等主任の先生方で話し合いをもち、各校で移動に向けた準備を行っていることや、図書室の本移動の日程等について協議したことの報告がありました。

《通学部会報告》

スクールバスについては「最終的に12ルートになること」「学童に関連して、必ずしも行きと帰りのバスが同じにならないこと」「帰りのバス時刻」「停留所の一部変更」等について了解を得ました。

また、先生方で検討してきた「スクールバスの約束」について提示し、今後、更に検討し「古川西小中学校スクールバス利用のしおり」として完成させていくことについて報告がありました。

《校旗について》 校旗デザイン案について報告し、委員より「もう少し文字を大きくできないか」等のご意見をいただき、今後、業者と調整の上、3月の完成に向けて準備をしていくこととしました。

【完成した校歌】

大崎市立古川西小中学校 校歌

作詞 千葉 淳
作曲 大場 陽子

(一) 葉菜を仰ぎ見て

大崎耕土この地に生きる

共に逞しく励む日々

稲穂のように強く

我ら新鮮新鮮 此処に芽ぐむ

さあ 希望溢れる夢を抱いて

輝け 古川西小中学校

(二) 船形に手を伸ばし

気高き想い心に抱け

共に健やかに歩む日々

若葉のように清く

我ら新鮮新鮮 此処に萌し

さあ 歴史受け継ぎ未来を創る

導け 古川西小中学校

(三) 栗駒は穏やかに

永遠に変わらぬ平和を願う

共に慎ましく紡ぐ日々

桜のように開く

我ら新鮮新鮮 此処に集え

さあ 学び尽くせぬ広き世界へ

羽ばたけ 古川西小中学校

- ご提示いただいた資料から、紺や赤を背景にした校章イメージを見ると引き締まった感じに見えるのですが、下の表の白背景で見るとぼやけた感じに見え、まったくイメージが異なってきますので、ほかの校章イメージも紺や赤に重ねて見れば判断しやすくなると思います。
- 背景色を決めていただいて、その上にすべての校章を重ねていただかないと選べないと思います。また、逆に今回校章を決定し、その決定されたもので、次回、紺や赤といった校旗の上に重ねたものをご提示いただいて、決定していくといった方法もあると思います。一度に両方を決めるということは難しいと思います。見栄えの問題もありますので。
- 校旗の色は後にして、今日は校章の色のみ決定した方がよろしいのではないかと思います。32種類の中から決定することはなかなか難しいと思いますので、投票の仕方を工夫してはいかがでしょうか。
- 同意見ですが、紺や赤の上に重ねてみないと判断がつきません。
- 最初、8種類ある文字の色を決定し、その後その文字色を使用した4種類の候補の中から決定するとスムーズだと思われます。
- （採決後）集計した結果「文字：黒」が8票となりましたので、これで決定してよろしいでしょうか。
- （続いて色の協議に入ったところで）今回の協議で最終決定できないのであれば、次回に白、紺、赤の上に重ねた資料を提示いただいて決定した方がよいと思います。
⇒委員皆様からご指摘いただきました点は的を得ていると思われます。仮に本日、校章候補を決定したとしても、想像の中での決定ということになり、実際に使用したときにイメージと違ってくことも予想されます。先ほど、文字の色を決定していただきましたので、こちらの4種類のデザインを使用して、白、紺、赤の上に重ねた資料をお示しし、次回決定していただければと思います。

（3）校歌制作（作詞・作曲者選定）について

- 公募した場合、謝礼を出すことは可能ですか。
⇒幾分かの謝礼を出すことは可能となります。また、先ほど、説明させていただいた内容を考慮し、委員皆様には選定方法を協議いただきたいと思います。
- 謝礼のことを気にするのもわかりますが、校歌を制作する際、子どもたちが親しみを持って、だれが作ったものかイメージできる方に作っていただいた方がよいのではないかと思います。私は自分が子どもの頃、校歌を制作した人がどんな人かイメージできないで歌ってきました。そこで、もし、大崎市に縁のある方で少しでも知名度のある方が制作してくれた校歌であれば、子どもたちにとっても、親御さんにとっても誇りになるものになるのではないかと思います。
- 専門家に依頼し、契約してしまった場合、地域に関係のない歌詞になってしまわないか心配です。専門家に丸投げになってしまうのでしょうか。
⇒専門家に依頼した場合、専門家は古川西部地区のことを調べることが予想されますし、なおさら、地域に縁のある方で、公募した校歌フレーズ・言葉があるのであれば、ご懸念している地域とかけ離れた校歌にはならないと思われます。また、岩出山小学校の校歌を依頼した際は、第1稿の音源と歌詞を提示いただき、準備委員会の中で確認し、修正いただき完成しています。制作いただいた専門家への敬意もありますし大幅に変えることはできませんが、制作するうえでの条件提示や若干の修正は可能です。
- 私は専門家に依頼した方がよいと思います。やはり、児童・生徒が歌いやすい校歌がよいと思いますので、専門家であれば、歌詞だったり、歌いやすい音域であったり、こちらの要望に合わせて制作いただけたらと思います。また、完成後、2月、3月に伴奏や歌を開校前に練習でき、4月にはみんなで歌えるようにしなければならないと思います。
- 可能かどうかわかりませんが、一つの案として、作詞をA氏に依頼して、その詞にB氏に作曲してもらおうということはどうでしょうか。
⇒ご提案いただいた方法について、作詞と作曲をそれぞれ双方に依頼するといった手法が可能かどうか、候補としてあげられている方と事務局としてまだ接していませんので、そのような方向で行くのであれば、それぞれに交渉してみたいと思います。
- 西中については50年、各小学校については100年もの歴史がありますので、各校の校歌の一節もぜひ新しい学校の校歌に入れてほしいと思うのですが、いかがでしょうか。
⇒（協議の結果）各校のフレーズも使用するというで決定したいと思います。